初めてでもよくわかるAGC



AGC株式会社

目次



■ A G C の概要	P.3
■AGCグループ中期経営計画 <i>"AGC plus-2020"</i>	P.23
■2020年業績見通し	P.32
■株主還元	P.37
■ 付属資料	P.40



A G Cの概要

旭硝子は、「AGC」へ



旭硝子株式会社から「AGC株式会社」に商号変更



会社概要



	
台	75

本社所在地

創立

代表取締役

決 算 期

連結子会社数

連結売上高

連結営業利益

連結従業員数

上場市場

単元株式数

AGC株式会社(英文; AGC Inc.)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号

1907年(明治40年)9月8日

平井 良典

12月31日

213社(うち海外177社)

1兆5,180億円(2019年度)

1,016億円(2019年度)

55,598人 (2019年度)

東証1部(証券コード 5201)

100株



代表取締役 社長執行役員CEO 平井 良典

AGCの原点(ガラス事業)



1907年、岩崎俊彌が旭硝子創業



創業の精神 "易きになじまず難きにつく"

『人がやっていない事業は他にいくらでもあるが、 やる以上は国のためになること、 **この国に暮らす人のためになることをやり遂げた** い。それが私にとっての板ガラスの製造だ。』

窓ガラスだけではないAGCの製品



身近にあるAGC製品



社会の発展を支え、時代を切り拓き続けた新事業



時代や次代のリーディング産業、そして社会全体の発展に貢献









スマホ用化学強化

建設ラッシュ

モータリゼーション

テレビ時代の到来

環境配慮型事業・ 商品の拡大

ITの進化

1907 年

1950 年代

1970 年代

1990 年代

2000 年代



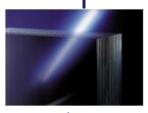
旭硝子創業 板ガラス事業開始



自動車用ガラス事業開始



イオン交換膜 開発に成功



LCD用無アルカリ ガラス事業開始



スマホ用化学強化 ガラス事業開始



ブラウン管用 ガラスバルブ事業開始



ASAHIKLIN

医農薬中間体 受託生産事業開始

世界中のより良い暮らしを実現した海外事業



現地パートナーや従業員とともに、各国経済・社会の発展に貢献









1950 年代

1960~70 年代 1980 年代 1990 年代 2000 年代



インドで 建築用ガラス 事業を開始



タイ・インドネシアで 建築/自動車用ガラス/ 化学品事業を開始



建築/自動車用 ガラス事業を 欧米で本格展開



フッ素化学品 事業を欧米で 本格展開



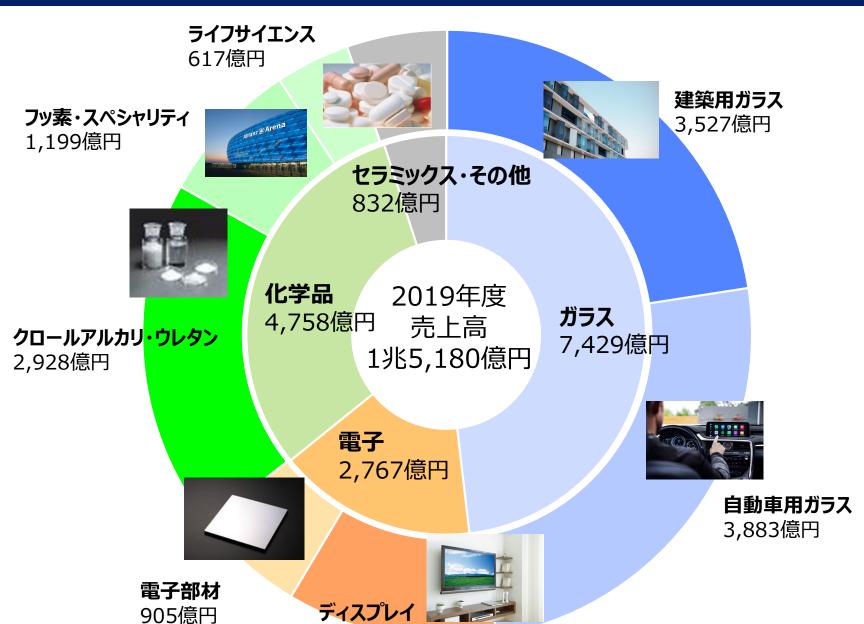
台湾・韓国で TFT/PDP用 ガラス事業を開始



ブラジルで 建築/自動車用 ガラス事業を開始

事業展開





1,747億円

※サブセグメント売上高は、外部顧客に対する売上高を使用しています

グローバル展開



(2019年12月期)

売上高:1兆5,180億円 営業利益:1,016億円 グループ従業員数 約55,600名

ヨーロッパ

売上高: 3,387億円 営業利益: 151億円 従業員数: 約17,100名

- ・建築用ガラス
- ・自動車用ガラス
- ・フッ素
- ・ライフサイエンス

日本・アジア

売上高: 1兆67億円 営業利益: 1,217億円 従業員数: 約33,200名

- 建築用ガラス
- 自動車用ガラス
- ・ディスプレイ用ガラス
- ・電子部材
- ・クロールアルカリ・ウレタン
- ・フッ素・スペシャリティ
- ・ライフサイエンス
- ・セラミックス

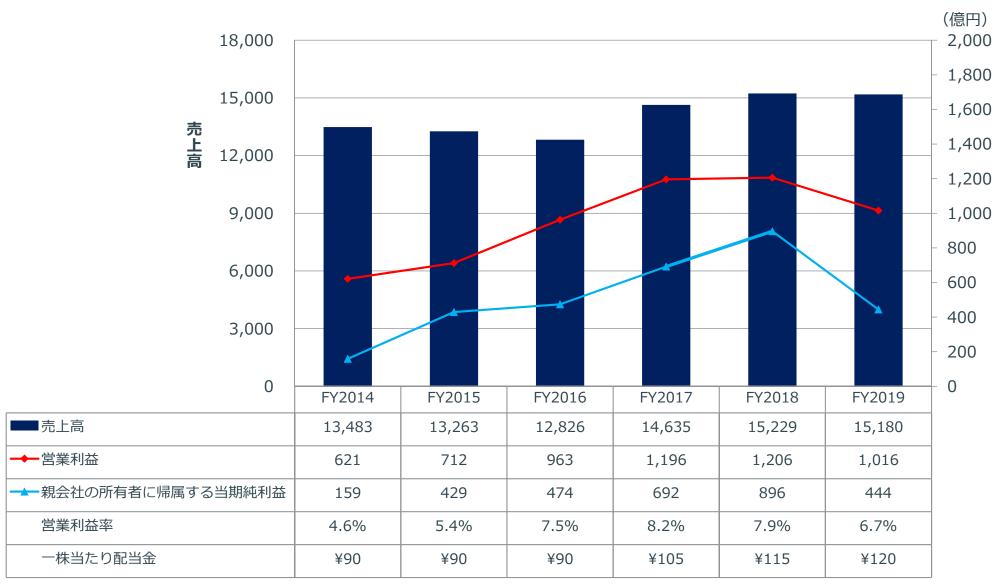
アメリカ

売上高: 1,726億円 営業利益: 55億円 従業員数: 約5,300名

- ・建築用ガラス
- 自動車用ガラス
- •電子部材
- ・フッ素
- ・ライフサイエンス

通期業績の推移





^{*}当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。

一株当たり配当金は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

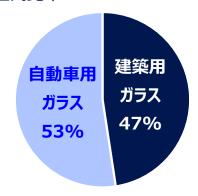
ガラスセグメント



2019年度

売上高 7,429億円 営業利益 93億円

売上高比率



自動車用ガラス

- ・自動車用ガラス
- ・車載ディスプレイ用カバーガラス

建築用ガラス

- ・フロート板ガラス
- ・型板ガラス
- ・網入り磨板ガラス
- ・Low-E(低放射)ガラス
- ・装飾ガラス
- ・建築用加工ガラス (断熱・遮熱複層ガラス、 防災・防犯ガラス、 防・耐火ガラス等)

マーケットシェア ※当社推定

フロート板ガラス 世界 **No.1**



自動車用ガラス世界トップシェア



車載用ディスプレイ カバーガラス 世界 **No.1**



『エコガラス』(省エネガラス)など高付加価値の製品を提供



サンバランス®

高断熱ペアガラス





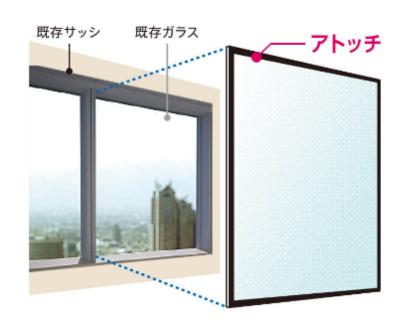
外からの熱を遮断



部屋の暖気を逃さない

- ・光や熱を選択透過・反射する特殊金属膜をコーティング。
- ・冷暖房効率が良いのでエネルギーを節約。

アトッチ® 後付け高断熱ペアガラス



- ・既存の窓の上からそのまま貼り付けるだけで、窓ガラスのペアガラス化を、短時間で行うことが可能。
- ・AGCの本社でも採用。

乗車時の快適性、燃費向上に配慮した高性能ガラスを提供





: 合わせガラス フロントガラス : 強化ガラス サイド・リアガラス

: アンテナ付ガラス リアガラス



ガラスの刻印



騒音 ロードノイズ 軽減 エンジン音 風切り音 特殊遮音中間膜 ガラス

紫外線



日焼けやシミ、シワの原因となる紫外線 ジリジリ感の原因となる赤外線

可視光線だけを透過させる

カット

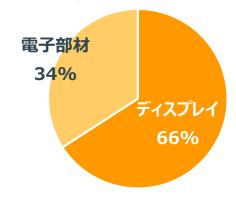
電子セグメント



2019年度

売上高 2,767億円 営業利益 256億円

売上高比率



マーケットシェア ※当社推定

TFT液晶/有機EL用 ガラス基板 世界 No.2



電子部材

- ・半導体プロセス用部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・プリント基板材料
- ·照明用製品
- ·理化学用製品等

ディスプレイ

- ・液晶用ガラス基板
- ・有機EL用ガラス基板
- ディスプレイ用特殊ガラス
- ・ディスプレイ用周辺部材
- ・ソーラー用ガラス
- ・産業用加工ガラス

電子機器用超薄板 ソーダライムガラス No.1



テレビ、PC、スマートフォンなどにガラスを提供



ディスプレイ用ガラス基板



~特徴~

- 透明性
- 平滑・平坦な表面
- 耐熱性

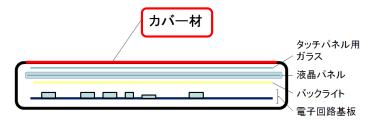


液晶テレビ、パソコンなどに使用

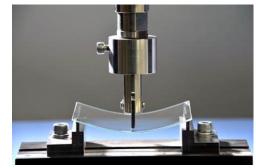
電子機器用カバーガラス

(化学強化用特殊ガラス: Dragontrail ®)

タッチパネル搭載端末の構造



Dragontrail®シリーズの特徴



強度試験 (3点曲げ試験: ガラス板厚1.1mm)

- 一般的なソーダライムガラスでは得られない強度
- 樹脂では得られない優れた耐傷性と高い質感

半導体関連を中心とした電子部材を提供

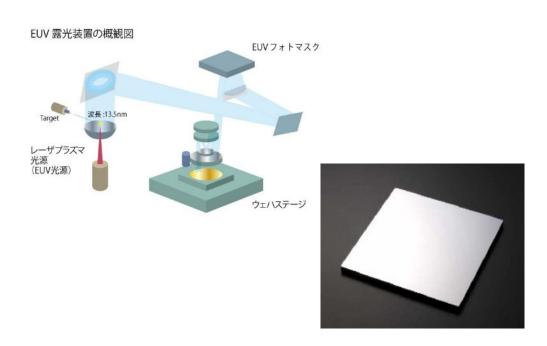


CMPセリアスラリー (半導体ウェハ研磨剤)

CMP装置 CMP装置 エカー・フェハー 定盤

CMP (Chemical Mechanical Polishing) という半導体デバイスの製造工程で、ウェハーを平坦化するプロセスで使用される消耗部材

EUV露光用マスクブランクス



EUV(Extreme Ultraviolet)リソグラフィは、波長13.5 nmにて露光する次世代リソグラフィ技術で、EUV露光用マスクブランクスは、そのリソグラフィ技術に必要な消耗部材

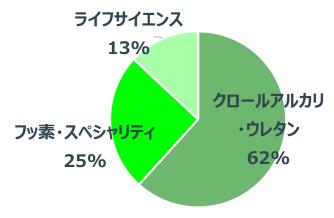
化学品セグメント



2019年度

売上高 4,758億円 営業利益 630億円

売上高比率



ライフサイエンス

・医農薬中間体・原体 (バイオ医薬品原薬を含む)

フッ素・スペシャリティ

- ・フッ素樹脂
- 撥水撥油剤
- ・ガス
- •溶剤
- ・ヨウ素製品

クロールアルカリ

- ・ウレタン
 - ・塩化ビニル
 - ・塩化ビニル原料
 - ・苛性ソーダ
 - ・ウレタン原料

マーケットシェア ※当社推定

ETFE樹脂 (フツ素樹脂) 世界 No.1



現場塗装塗料用 フッ素樹脂 世界 No.1



苛性ソーダ・PVCは"幅広い産業分野における基礎素材"



苛性ソーダは東南アジア市場において生産量ベースでシェアNo.1



苛性ソーダ

- ✓ パルプ・紙
- ✓ アルミの抽出
- ✓ 石鹸・洗剤
- √ 下水道中和



塩化ビニル

- ✓ 塩化ビニルパイプ
- ✓ 窓サッシ



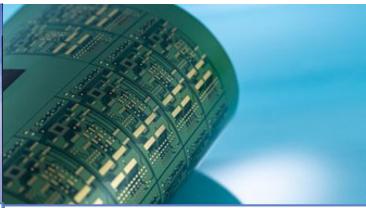
フッ素は"耐熱性、耐候性、耐薬品性に優れた高機能素材"



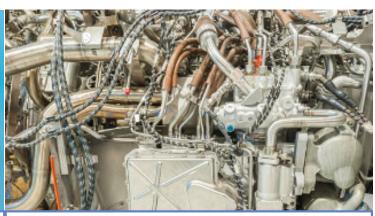
耐熱性、耐候性、耐薬品性が求められる分野で主に使用される



明石海峡大橋の鉄部塗装



プリント基板向けフッ素樹脂



航空機部品



カバーガラスの指紋防汚、滑り性向上



アリアンツアリーナの外装樹脂



自動車用ケーブル

ライフサイエンス

ライフサイエンス事業を通じ快適な生活に貢献



合成医農薬



- ・医薬品開発
 - 緑内障・高眼圧症治療剤タフルプロスト※は 世界60カ国以上で販売中
- ・医農薬中間体・原体の受託製造

ハイオ医薬品



- ・国内バイオ製造受託ではトップ
- ・M&Aにより17年から欧米含めグロー バルで開発製造受託事業を展開

※ タフルプロストは参天製薬株式会社と共同開発した緑内障・高眼圧症治療剤です



AGCグループ中期経営計画 *"AGC plus-2020"*

AGCグループの長期経営戦略



"2025年のありたい姿"

コア事業が確固たる収益基盤となり、 戦略事業が成長エンジンとして一層の収益拡大を牽引する、 高収益のグローバルな優良素材メーカーとなる

コア事業

ポートフォリオ経営の徹底による 長期安定的な収益基盤の構築

- ・建築用ガラス
- ・自動車用ガラス(既存)
- 基礎化学品
- ・フッ素化学品
- ・ディスプレイ
- ・セラミックス

戦略事業

高付加価値ビジネスの拡大による 高収益事業の確立

- ・モビリティ
- ・エレクトロニクス
- ・ライフサイエンス

AGC plus-2020 の主要課題



AGC plus-2020 では2025年に向けた礎を築く

- 市況変動に強い高付加価値事業を伸ばす
- 戦略事業の成長戦略を推進する
- 成長地域・勝てる地域へ経営資源を集中する
- 戦略的なM&Aにより持続的成長を図る

経営目標の進捗



- 戦略事業は収益を順調に拡大
- 財務安定性を維持しつつ、積極投資を実施

		長期計画										
		中期経	-2020									
	FY2017	FY2018	FY2020見通し	, FY2020 目標	FY2025 目標							
営業利益	1,196億円	1,206億円	550億円	1,600億円 以上	2,292億円以上(過去最高益更新)							
ROE	6.1%	7.7%	1.6% *	8.0% 以上	10.0% 以上							
戦略事業 利益貢献比率	10%	17%	58%	25% 以上	40% 以上							
D/E	0.38	0.43	_	0.5 以下	0.5 以下							

^{*} FY2020予想のROEは、2019年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

主な投資案件と利益効果発現のタイミング



■ 投資効果は2020年から発現し、2021年に本格化

2019 2020 2021 2022~

欧州:ガラス窯の冷修による生産性、燃費の向上

ブラジル:第2フロート工場を新設

インドネシア:建築用ガラス向けコーティング設備新設

モロッコ:自動車用ガラス工場新設

中国:車載用カバーガラス拠点新設

雷子

ガラス

中国:第11世代TFT液晶用ガラス基板用の窯を移設

中国:第11世代用のTFT液晶用ガラス生産能力を増強

日本:EUV露光用フォトマスクブランクス供給体制の大幅増強

インドネシア:塩ビ製品能力増強

タイ: 電解能力増強

日本:フッ素製品能力増強

日本:GMP対応合成医薬品製造能力を増強

デンマーク:バイオ医薬品生産能力を増強

アメリカ:バイオ医薬品生産能力を増強

化学品

戦略事業 高成長・高収益事業の創造



【マクロ環境の変化】

IoT時代の到来 交通インフラの進化 新たなエコシステムの構築 長寿命化 世界人口の増加 安全·安心·快適の追求













モビリティ

つながる車/自動運転 情報表示の進化 輸送機器の更なる軽量化

エレクトロニクス

IoT/AI時代の到来 次世代高速通信/自動運転 新デバイスの普及

戦略事業

安心・安全な治療 長寿命化 世界人口の増加

ライフサイエンス

戦略事業:モビリティ



ガラスのディスプレイ化や通信機能付加などにより 素材だけでなくソリューションまで提供

次世代ガラスのキーワード 「ガラスは一等地」 「マルチファンクション」



車載用ディスプレイカバーガラス



・2019年発売のLEXUS「RX」などに 採用されており、世界シェアNo.1

5G対応自動車用ガラスアンテナ



・NTTドコモ、エリクソンと共同で 「ガラス一体型5Gアンテナ」による 5 G 通信に成功

戦略事業:エレクトロニクス



スマートフォン/半導体製造プロセス用部材 に加え、5G対応部材も展開



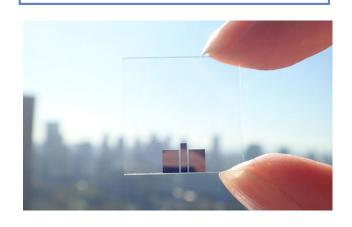
スマートフォンカメラ用 赤外線吸収ガラスフィルター

EUV露光用 フォトマスクブランクス

・スマートフォンカメラの高画質化に貢献

・15年の開発期間を要した次世代半導体製造プロセス部材

5G対応合成石英アンテナ



・透明化することで、視認エリアでも、 美観や景観を損なわない

戦略事業:ライフサイエンス



臨床試験から商業生産までの 医薬品原薬を開発製造受託



合成医農薬・バイオ医薬の開発製造受託



・日本、アメリカ、ヨーロッパ、グローバルで事業を拡大

医薬品の開発製造受託とは?

製薬会社の動向

近年、新薬開発に注力するため、生産プロセス開発や製造を委託する傾向

AGCの強み

生産効率が高く小回りの利く技術で、 高品質のサービスをグローバルに提供が可能



2020年 通期業績の見通し

2020年 通期業績見通し



■ 2Qを底にコロナ禍から回復傾向にあるものの、前年比減収減益

(億円)

	FY2019	FY2020 (7/31予想)	FY2020 (今回予想)	コロナ禍影響額
	通期	通期	通期	通期
売上高	15,180	13,500	13,900	▲1,890
営業利益	1,016	400	550	▲690
税引前利益	762	未定	350	
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	444	未定	180	
1株当たり配当(円)	120	未定	120	
営業利益率	6.7%	3.0%	4.0%	
ROE	3.9%	_	1.6%	*
為替レート(期中平均) JPY/USD	109.1	109.1	106.9	
JPY/EUR	122.1	119.6	121.9	
原油 (Dubai,期中平均) USD/BBL	63.5	42.8	42.3	
エチレン(CFR SEA) USD/MT	823	600	684	

^{*} FY2020予想のROEは、2019年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

セグメント別 売上高/営業利益見通し



■ ガラス、化学品は減収減益、電子は増収増益となる見通し

(億円)

	FY2019 通期		FY2020 通期予想(今回)		增減		FY2 通期予想(7	2020 7/30発表)	增流	咸	コロナ禍類	影響額
	(a)	(t	b)	(b)-((a)	(0	c)	(b)-	(c)		
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス	7,429	93	6,300	▲ 270	▲ 1,129	▲ 363	5,900	4 00	+ 400	+ 130	▲ 1,120	▲ 415
電子	2,767	256	2,900	340	+ 133	+ 84	2,900	330	+ 0	+ 10	▲ 70	▲ 30
化学品	4,758	630	4,500	450	▲ 258	▲ 180	4,500	450	+ 0	+ 0	▲ 700	▲ 245
セラミックス・その他	832	39	800	30	▲ 32	4 9	850	20	▲ 50	+ 10	+ 0	+ 0
消去	▲ 606	▲ 0	▲ 600	0	+ 6	+ 0	▲ 650	0	+ 50	+ 0	+ 0	+ 0
連結合計	15,180	1,016	13,900	550	▲ 1,280	4 466	13,500	400	+ 400	+ 150	▲ 1,890	▲ 690

各事業の見通し



■ コロナ禍から回復基調にあるものの、欧州では感染拡大の第2波の影響が懸念される(4Qコロナ禍影響額合計:売上高 ▲450億円、営業利益 ▲155億円)

	2020年 4Q見通し	業績見込み	コロナ禍 影響額
ガラス	(建築用ガラス) ・日本を除く地域は不需要期に入り、QoQで出荷が減少 ・欧州はコロナ感染第2波の影響が懸念される (自動車用ガラス) ・不需要期に入り、当社の出荷も減少 ・欧州はコロナ感染第2波の影響が懸念される	売上高 1,641億円 営業利益 ▲51億円	売上高 ▲200億円 営業利益 ▲75億円
電子	 (ディスプレイ) ・液晶用ガラス基板はQoQで出荷は横ばい、価格は▲1桁前半% ・ディスプレイ用特殊ガラスは客先構成の影響からQoQで出荷が減少 (電子部材) ・半導体関連部材、オプトエレクトロニクス用部材の出荷は引き続き堅調 	売上高 799億円 営業利益 68億円	売上高 ▲10億円 営業利益 ▲5億円
化学品	(クロールアルカリ・ウレタン) ・東南アジアのクロールアルカリ製品の需要は緩やかに回復 (フッ素・スペシャリティ) ・コロナ禍の影響により航空機向けなどの需要は低迷するものの、自動車向け・建築向けの需要はゆるやかに回復。 (ライフサイエンス) ・新型コロナウイルス用ワクチン開発関連の新規受託もあり、堅調に推移	売上高 1,284億円 営業利益 125億円	売上高 ▲240億円 営業利益 ▲75億円

戦略事業の利益貢献



- コロナ禍の影響は限定的で順調に業績拡大する見通し
- 5/18発表時から変更。エレクトロニクスとライフサイエンスが上振れる見通し



^{* 2020}年5月18日発表: 売上高 1,900億円(エレクトロニクス 1,000億円、ライフサイエンス 750億円、モビリティ 150億円)、営業利益 300億円

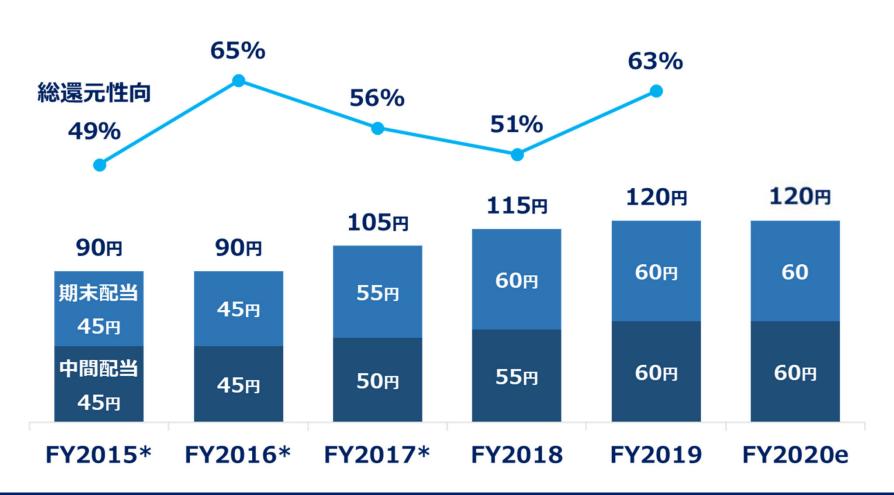


株主還元

株主還元の考え方



■ 現在の1株あたり年間配当額以上の継続を基本に、自社株取得を含めた連結総還元性向50%以上を継続する方針



株価動向



日経平均とAGC株価の相関

※2015年1月5日株価を起点に増減率を表示





AGC 株価動向



出所:Bloombergデータをもとに作成

2020年10月30日

株価:**3,245円**

株価配当利回り※1:3.7%



付属資料

業績推移



									(億円)
ガラス	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20	3Q.20
売上高	1,868	1,953	1,861	1,890	1,840	1,837	1,693	1,249	1,717
建築用ガラス	878	964	857	890	875	905	801	706	840
自動車用ガラス	987	985	1,001	996	963	923	889	534	869
(セグメント間)	3	4	4	5	3	9	3	8	7
営業利益	29	44	35	39	23	4	▲ 26	▲ 182	▲ 12

電子	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20	3Q.20
売上高	646	670	594	652	761	760	693	693	715
ディスプレイ	431	436	398	441	449	460	433	433	448
電子部材	184	199	160	185	283	276	238	247	257
(セグメント間)	30	34	36	26	28	24	22	13	10
営業利益	61	78	25	35	109	87	89	85	99

化学品	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20	3Q.20
売上高	1,252	1,295	1,127	1,158	1,197	1,275	1,142	983	1,091
クロールアルカリ・ウレタン	848	827	705	710	745	768	695	559	632
フッ素・スペシャリティ	304	328	287	299	302	311	283	247	250
ライフサイエンス	96	136	132	146	147	193	160	173	207
(セグメント間)	3	3	3	4	4	3	4	5	3
営業利益	166	209	144	118	177	191	151	75	98

財務指標



	IFRS								
		15/12	16/12	17/12	18/12	19/12			
売上高	百万円	1,326,293	1,282,570	1,463,532	1,522,904	1,518,039			
営業利益	百万円	71,172	96,292	119,646	120,555	101,624			
営業利益率	%	5.4	7.5	8.2	7.9	6.7			
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	42,906	47,438	69,225	89,593	44,434			
自己資本当期純利益率(ROE) *1	%	3.9%	4.3%	6.1%	7.7%	3.9%			
総資産営業利益率(ROA) *2	%	3.5%	4.8%	5.7%	5.4%	4.4%			
自己資本比率	%	55%	55%	53%	51%	50%			
D/E(有利子負債・純資産比率)	倍	0.40	0.37	0.38	0.43	0.47			
営業CF/有利子負債	倍	0.40	0.47	0.42	0.35	0.32			
一株当たり当期純利益(EPS) *3	円	185.60	205.14	302.12	399.51	200.85			
一株当たり配当金	円	90	90	105	115	120			
EBITDA *4	百万円	228,381	195,767	249,880	259,425	231,857			
為替レート(期中平均)	円/ドル	121.05	108.84	112.19	110.43	109.05			
何日レード (州中十四)	円/ユーロ	134.31	120.33	126.66	130.42	122.07			

^{*1} 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計(期中平均)

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。https://www.agc.com/ir/pdf/data all.pdf

^{*2} 営業利益/総資産 (期中平均)

^{*3} 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。 一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

^{*4} EBITDA(支払利息・税金・減価償却費控除前利益)=税引前利益+減価償却費+支払利息



AGC株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

問い合わせ先 : 広報・IR部

Mail Address : investor-relations@agc.com

Tel : 03-3218-5096

Fax : 03-3201-5390

易きになじまず難きにつく 人を信ずる心が人を動かす 世界に冠たる自社技術の確立を 開発成功の鍵は使命感にあり

A G Cは、この創業の精神を礎に、 お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、 独自の素材とソリューションで、 時代のトップランナー達を支えてきました。

私たちはこれからも、互いの知見や技術を掛け合わせ、人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

Your Dreams, Our Challenge

www.agc.com



予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を 勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点 で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありま すが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に 関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。